

平成30年度 川口市行政評価外部評価委員会 評価対象事業総括表

(単位：千円)

部会	事業名 (担当課)	今後の 事業方針 [事業担当課]	予算編成状況		予算額の推移	
			31年度予算要求 [事業担当課]	予算編成結果 [財政課]	30年度	31年度
第一部会	①霊園施設管理費 (保健総務課) 【P1~2】	施設の抜本的 見直し	増額 (要求額：11,917) 【増額理由】 霊園整備等調査業務委託料 を計上することから増額	要求額どおり	7,792	11,917
	②生活保護受給者 就労支援事業 (生活福祉1課・2課) 【P3~4】	事業内容の 見直し	減額 (要求額：34,050) 【減額理由】 事業の委託化を推進したこ とから減額	要求額どおり	37,221	34,050
	③廃棄物減量啓発事業 (資源循環課) 【P5~6】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額：11,319)	要求額どおり	11,358	11,319
	④事業系廃棄物対策事業 (資源循環課) 【P7~8】	現状維持で 実施	減額 (要求額：586) 【減額理由】 委託料が前年度より減額の ため減額	要求額どおり	1,726	586
第二部会	⑤多文化共生推進事業 (協働推進課) 【P9~10】	拡充で実施	増額 (要求額：30,262) 【増額理由】 事業の新設並びに既存事業 の拡張を行うことから増額	減額 (海外視察 -4,000)	10,478	26,262
	⑥緊急通報装置整備事業 (長寿支援課) 【P11~12】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額：25,577)	要求額どおり	26,085	25,577
	⑦アートギャラリー 企画関係費 (文化推進室) 【P13~14】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額：17,524)	要求額どおり	17,662	17,524
	⑧アートギャラリー 事業運営費 (文化推進室) 【P15~16】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額：16,688)	ほぼ要求額どおり	16,676	16,544

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	①霊園施設管理費	担当課	保健総務課	部会	第一部会
-----	----------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
焼骨の埋蔵又は収蔵を希望する者に対し、墓地埋葬等に関する法律に基づき、霊園の墓地及び納骨堂等を利用に供すること。	施設のあり方・方向性
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・業務委託による施設の管理運営(霊園管理、一般廃棄物収集運搬、空調設備保守管理、機械警備等) ・墓地、納骨堂の使用許可及び利用状況管理等 	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1) 霊園設置及び管理条例は昭和41年に制定されており、時代に合わせた変化が必要である。</p> <p>(2) 一部の市民のみが利益を受けているという実態であり、他の市民との公平性が損なわれている。全ての希望者が、利用できる事業(霊園)が望ましい。</p>
--

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1)(2) 安行霊園は開園後50年以上が経過して施設全体が老朽化しており、また、多様化した墓地形式等の新しいニーズにも対応できていない。今後、市営霊園のあり方を含めて施設を見直すにあたり、合祀形式の墓地を設置するなど、できるだけ多くの希望者が利用できる施設となるよう検討していく。</p>
--

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

今後、市営霊園のあり方を含めて施設更新について検討していくにあたり、平成31年度に現霊園区域における見直しの可能性調査をするための経費を計上する予定である。また、他自治体等の先進事例を視察するための旅費等を併せて計上する予定である。

5 予算編成結果

予算要求額	11,917千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	霊園施設の抜本の見直しをするための霊園整備等調査業務委託料を4,365千円計上することから、前年度より増額の予算要求を認めるもの。

※（参考）予算額の推移

単位：千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	9,072	
平成30年度	7,792	-1,280
平成31年度	11,917	4,125

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	②生活保護受給者就労支援事業	担当課	生活福祉1課・2課	部会	第一部会
-----	----------------	-----	-----------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
稼働年齢層(15～64歳)で稼働能力がありながら、自ら就労機会を得ることが難しく就労に向け一定の支援が必要な者及び準備が必要な者を、就労開始に導き、自立助長の促進を図るもの。	事業の効果
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援員による就労に関する相談・助言等 ・就労に向け一定の準備が必要な者への日常生活習慣の改善等の支援 	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1)民間の能力活用も認められるが、今後については、補助事業の収入及び支出を精査し、重点をどこに置くかを検討する必要がある。</p> <p>(2)ハローワークと委託業者との情報共有や連携があってもよいと思う。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1)委託の業務内容の見直しを行い、国庫補助を有効に活用し、補助事業の収入及び支出を効果的に改善して参ります。</p> <p>(2)委託事業者は、独自の求人開拓のほか、ハローワークの求人情報を基に受給者用の求人内容とする交渉も行っています。今後も、ハローワークと委託業者との更なる情報共有及び連携を図り、より受給者の就労に結びつく求人を用意できるよう実施して参ります。</p>

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

平成31年度予算は、事業内容を改善し、今年度と同規模で要求する予定です。
 事業内容といたしましては、外部評価委員会からの指摘を含めた、受給者への就労支援の改善を実施し、より効果的な就労に向けた支援及びフォローアップを実施いたします。
 具体的には、就労支援員の更なる委託化を推進し、キャリアコンサルタント等の専門知識を備えた支援員によるオーダーメイド支援を実施いたします。
 また、事業費は同規模ではありませんが、事業参加している受給者の就労意欲及び能力の精査を行い、参加者個々の利用すべき事業を再検討することにより、国の補助の比重が大きいメニューに事業内容を改善し、市の負担の軽減を図る予定です。

5 予算編成結果

予算要求額	34,050千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	事業の委託化を推進し、前年比で減額となる予算要求であったことから要求額どおりとしたもの。

※ (参考) 予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	36,951	
平成30年度	37,221	270
平成31年度	34,050	-3,171

※ (参考) 事業費内訳の推移

		事業費	特定財源		一般財源	一般財源比率
			(国費)			
平成30年度	全体	37,221	25,194	(国費)	12,027	32%
	就労支援員経費	4,589	3,440	3/4		
	職業訓練事業	32,632	21,754	2/3		
平成31年度	全体	34,050	24,404	(国費)	9,646	28%
	就労支援事業	20,479	15,358	3/4		
	職業訓練事業	13,571	9,046	2/3		

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	③廃棄物減量啓発事業	担当課	資源循環課	部会	第一部会
-----	------------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
資源循環型社会実現のための情報提供を行い、ごみの減量やリサイクルの推進を図ることで、市民一人ひとりにごみ問題や資源の有効利用の理解を深めてもらうこと。	事業の効果
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・環境部広報誌PRESS530を年3回発行 ・ごみの分別ガイドアプリの公開(日本語・英語・中国語・ハングル・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語・ベトナム語・トルコ語) ・ごみの分け方出し方の作成(222,000部) ・家庭ごみ収集日情報メール配信(登録者数4,125人) 	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1)一定の効果は見られると思うが、SNSの活用などの工夫をすべきである。</p> <p>(2)従来の取り組みの延長であるように感じるため、先行自治体の経験を学ぶ等、工夫が必要である。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1)現在、メール配信を委託している事業者を確認したところ、SNSでのごみの収集日に関するお知らせについては、川口市内において18の収集パターンがあり、ほぼ毎日市内で収集が行われているため、毎日定刻に対象地区へ手動で配信していくことは通常業務の妨げとなるため不向きであると考えます。また、市からのお知らせや、環境に関する情報をSNSで配信することにつきましては若年層へのアプローチが出来ますが、スマートフォン・PCの未利用者や高齢者に対してはアプローチが出来ないため、どの世代でも利用ができるメール配信でのお知らせを行っていく考えです。</p> <p>(2)先行自治体の啓発事業を参考にするため、来年度は実際に先行自治体に赴き、現状や課題等を確認し、先行自治体の啓発事業、制度等を参考とし、廃棄物減量啓発事業の推進に役立てたいと考えています。</p>
--

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

- ・廃棄物減量啓発事業の改善に向け、先行自治体への視察の費用を要求する予定です。
- ・啓発品については必要性を考慮し、環境に配慮したグッズを作成します。
- ・外国人が増加していることから、平成31年度においても、外国語版川口市家庭ごみの分け方・出し方の内容を改良して作成する予算を計上します。

5 予算編成結果

予算要求額	11,319千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	前年度とほぼ同額の予算要求であったことから、現状維持として要求額どおりとしたもの。

※（参考）予算額の推移

単位：千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	11,749	
平成30年度	11,358	-391
平成31年度	11,319	-39

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	④事業系廃棄物対策事業	担当課	資源循環課	部会	第一部会
-----	-------------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
<p>廃棄物の発生抑制、再生利用の促進などの適正処理を啓発し、事業者が適正処理をすることにより、地域の生活環境の保全、公衆衛生の向上及び循環型社会の構築を推進する。もって市民の健康で快適な生活を確保すること。</p>	<p>事業の効果</p>
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物収集運搬業許可更新(42件) ・一般廃棄物収集運搬業許可業者講習会(51人(36社))(年1回開催) ・浄化槽清掃業の許可、指導 ・事業者への適正処理の啓発、指導 ・新規事業所の再生利用対象物、廃棄物保管場所の設置届の受理 	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>既存店の事業所には既に一部効果が出ているとのことであるが、次々と事業者が変わるため、まだその効果が減殺されていると思われる。事業者変更の機会を保健所と連携して、探る工夫が必要である。先行自治体に学ぶことも大切である。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>保健所との連携のなかで、新規営業許可の申請時に事業系廃棄物の適正処理のリーフレットを配布してもらっているほか、新規店舗を把握した場合、適正処理の確認、周知、指導を実施しています。</p>
--

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

隔年で行っている事業の都合上、減額となっておりますが、要求水準といたしましては前年度と同水準で計上します。

5 予算編成結果

予算要求額	586千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	前年度から委託料を減らし、予算額を減額していることから、要求額どおりとしたもの。

※ (参考) 予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	1,550	
平成30年度	1,726	176
平成31年度	586	-1,140

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	⑤多文化共生推進事業	担当課	協働推進課	部会	第二部会
-----	------------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
日本人住民も外国人住民も国際社会の一員との認識を持ち、日本人住民だけでなく外国人住民も地域社会に参加し、共に社会を担い、安心して暮らすことのできる多文化共生社会の形成を推進するもの。	事業の効果
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の意識啓発 ・多文化理解を促進するイベントの実施 ・外国人住民相談・通翻訳業務(相談件数:572件、通訳・翻訳対応件数:277件) ・多文化共生指針策定委員会等の運営(第2次川口市多文化共生指針の策定) 	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1)外国人の人口比率が高まる中で、必要性は高い。</p> <p>(2)共生の方向性を市が明確に示す必要がある。また、その方向性を外国人にきちんと理解してもらう努力が必要である。</p>
--

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1)平成31年度予算については、査定対象経費の特別要求枠において、予算要求を増額して規模を拡大していく方針である。</p> <p>(2)平成30年3月に第2次多文化共生指針を策定した。多文化共生の理解については、外国人よりも日本人向けの啓発が必要である。また、外国人については、地域で暮らしていく上で必要なルールやマナーの啓発が必要である。</p>
--

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

平成31年度の予算編成にあたっては、査定対象経費の特別要求枠において、以下のとおり事業の新設並びに既存事業の拡張を行う。

- ・国際交流員の増員(2名→3名)(※ベトナム語の国際交流員を想定)
- ・外国人相談員の拡張及び増員(英語・韓国語を月3回から毎週へ拡張、ベトナム語及びタガログ語(隔週)の増員)
- ・日本語ボランティア入門講座を年2回から年3回の開催へ拡大
- ・外国人住民向けに、地域で暮らしていく上で必要なルールやマナー、制度や手続きなどを多言語で記載した冊子の作成(3,000冊)
- ・タブレット端末及び携帯電話を使用したテレビ電話等多言語通訳の各課への展開
- ・(仮称)多文化交流フェスティバルの開催
- ・海外への先進都市視察の実施
- ・夏休み期間中の子ども向け日本語教室の開催(100人×4日)

5 予算編成結果

予算要求額	30,262千円
財政課の 予算編成結果	26,262千円 (15,784千円増)
その理由	多文化共生社会の推進を図るために要望のあった海外視察を除く、事業の新設並びに既存事業の拡張については、全てを認め、増額要求となった。

※ (参考)予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	10,477	
平成30年度	10,478	1
平成31年度	26,262	15,784

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	⑥緊急通報装置整備事業	担当課	長寿支援課	部会	第二部会
-----	-------------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
急病や災害時に迅速かつ適切な対応を図るとともに、健康相談をはじめとする各種相談及び定期的な安否確認を行うことで、高齢者の不安を解消すること。	事業の効果
事業内容	
<p>〈対象者〉 急変をきたす恐れがある発作性、慢性疾患のある概ね65歳以上の単身高齢者及び高齢者世帯で、傷病名が記載された市の所定の証明書を提出した方。（対象疾患は内規で定めた狭心症、脳血管性疾患、末期がん等の21疾患及び新たに対象とした慢性の腎臓病、間質性肺炎、高血圧症等の4疾患）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用の通報装置を自宅に設置し、緊急時に24時間365日、看護師等の資格を持ったオペレーターが救急車の手配等適切な対応を行う。（緊急通報装置の貸与は無料） ・利用者にオペレーターが電話をし、近況を聞くなどの安否確認を行う。（専門の看護師等による健康・生活相談及び月1回の安否確認を実施） 	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1) 必要性は認めるが、公平性に疑問が残る。21疾患と新たな4疾患を明示して広報してもよいのではないかと。潜在的利用者がこの事業にアクセスできているのか疑問が残った。</p> <p>(2) 費用対効果は高いと思うが、10年間、委託業者が変わっていないということは疑問である。業者を変更するというのではなく、業者の選定方法を見直してもよいのではないかと。</p>
--

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1) 医療の進歩に伴い、今後も疾患の増加が見込まれるので、全ての疾患を明示することは不可能です。現在は疾患を明示して広報していませんが、代表的な疾患を例示していくことを考えてます。</p> <p>(2) 本市で所持している機器を利用してくれる業者が見つかりません。また、24時間365日受診センターが対応しており、29年度末で1395台が稼働しています。委託業者の変更に伴い、全ての機器を撤去・設置するのに3ヶ月以上の時間と、多額の費用がかかります。しかし、プロポーザルが可能か検討していきます。</p>
--

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

公平性に疑問が残るので、急病のリスクが高い方、または緊急性が見込まれる疾患の追加と、現在の対象条件以外にも、加齢により不安を抱く高齢者に対しても設置を検討し利用促進を図ります。

5 予算編成結果

予算要求額	25,577千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	部会で必要な予算との結論だったため、要求額どおりとしたもの。 また、部会で問題視されていた、随意契約についても予算額を抑えるうえでやむを得ないものと認識している。

※（参考）予算額の推移

単位：千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	27,000	
平成30年度	26,085	-915
平成31年度	25,577	-508

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	⑦アートギャラリー企画関係費	担当課	文化推進室	部会	第二部会
-----	----------------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点																														
市民の美術に対する意識の高揚を図るとともに、美術の鑑賞・創作活動の場を提供し、もって芸術文化の発展に寄与すること。	施設のあり方・方向性																														
事業内容																															
【アートギャラリー自主事業一覧(平成29年度)】																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>入場者数</th> <th>開催日数</th> <th>収入</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>春の企画展〈アートで解明! 空気の正体〉※</td> <td>3,195人</td> <td>38日</td> <td>307,200円</td> </tr> <tr> <td>夏の企画展〈公募 新鋭作家展「影⇄光(カゲかヒカリ)」〉</td> <td>1,733人</td> <td>41日</td> <td>141,900円</td> </tr> <tr> <td>第7回新鋭作家公募展 二次審査の作品公開</td> <td>690人</td> <td>14日</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>第12回アーティスト・イン・スクール(講師個展発表)</td> <td rowspan="2">1,919人</td> <td>38日</td> <td rowspan="2">0円</td> </tr> <tr> <td>第12回アーティスト・イン・スクール(児童成果発表)</td> <td>26日</td> </tr> <tr> <td>アートな年賀状展2018</td> <td>1,341人</td> <td>13日</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,878人</td> <td>170日</td> <td>449,100円</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	入場者数	開催日数	収入	春の企画展〈アートで解明! 空気の正体〉※	3,195人	38日	307,200円	夏の企画展〈公募 新鋭作家展「影⇄光(カゲかヒカリ)」〉	1,733人	41日	141,900円	第7回新鋭作家公募展 二次審査の作品公開	690人	14日	0円	第12回アーティスト・イン・スクール(講師個展発表)	1,919人	38日	0円	第12回アーティスト・イン・スクール(児童成果発表)	26日	アートな年賀状展2018	1,341人	13日	0円	合計	8,878人	170日	449,100円	
事業名	入場者数	開催日数	収入																												
春の企画展〈アートで解明! 空気の正体〉※	3,195人	38日	307,200円																												
夏の企画展〈公募 新鋭作家展「影⇄光(カゲかヒカリ)」〉	1,733人	41日	141,900円																												
第7回新鋭作家公募展 二次審査の作品公開	690人	14日	0円																												
第12回アーティスト・イン・スクール(講師個展発表)	1,919人	38日	0円																												
第12回アーティスト・イン・スクール(児童成果発表)		26日																													
アートな年賀状展2018	1,341人	13日	0円																												
合計	8,878人	170日	449,100円																												
【アートギャラリーワークショップ等(平成29年度)】																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ワークショップ</td> <td>114人</td> </tr> <tr> <td>優しい鑑賞講座</td> <td>97人</td> </tr> <tr> <td>たのしい実技講座</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>アートさんぽ</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>企画展関連イベント</td> <td>303人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>594人</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加者数	ワークショップ	114人	優しい鑑賞講座	97人	たのしい実技講座	47人	アートさんぽ	33人	企画展関連イベント	303人	合計	594人																	
事業名	参加者数																														
ワークショップ	114人																														
優しい鑑賞講座	97人																														
たのしい実技講座	47人																														
アートさんぽ	33人																														
企画展関連イベント	303人																														
合計	594人																														

2 外部評価委員からの主な評価コメント

文化政策の緊急度や深刻性は高くないため、きちんとしたビジョンを持たなければ、いずれ予算を削減されてしまうのではないかと。中長期的展望を持ち、今後展開したい企画案や、そのために必要な人材等を戦略的に示して、事業展開していく必要があると思う。

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

アトリアの活動は、「企画展」「ワークショップ・アートさんぽ」「講座(たのしい実技講座、やさしい鑑賞講座)」「連携事業(地域連携、学校連携)」「貸しギャラリー事業」の5つの大きな柱がある。これらすべてを実施していく上で、特に「企画展」を担当する学芸職は知識・経験は元よりその企画力が求められるところである。現在、柱とする春の企画展、夏の新鋭作家展、秋のアーティスト・イン・スクールと3つの企画展に対し企画担当学芸員は2名のうち1名は非常勤職員である。非常勤職員の雇用は不安定であり、事業の継続性や新たな事業展開の面からみると常勤職員の専門職(学芸員)の増員が必須であるが、市全体の職員採用状況からすると専門職(学芸員)の採用は非常に難しい。今後は、人材確保も長期的計画で進めていく。

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

広報に関わる予算を前年度より重点的に配分し強化していく。具体的には近隣大型ショッピングモールのアリオ川口フードコート内にある情報発信モニターの「フードコートビジョン」に自主企画展の情報を放映する広告料を新規に計上するほか、チラシ・ポスターの配布箇所や配布数を増大し事業の宣伝効果をより一層図るため、印刷製本費や郵送料などの関係経費を計上していく。

5 予算編成結果

予算要求額	17,524千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	前年度を下回る要求額であったため要求額どおりとしたもの。

※（参考）予算額の推移

単位：千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	18,982	
平成30年度	17,662	-1,320
平成31年度	17,524	-138

平成30年度外部評価委員会からの評価コメント・対応方針等一覧表

事業名	⑧アートギャラリー事業運営費	担当課	文化推進室	部会	第二部会
-----	----------------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点																											
文化共催展など関係団体等に美術の鑑賞・創作活動の場を提供することで、市民の美術作品に対する意識の高揚を図るとともに、文化芸術活動の発展に寄与すること。	施設のあり方・方向性																											
事業内容																												
【アートギャラリー共催事業一覧(平成29年度)】																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>入場者数</th> <th>開催日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第12回川口市美術家協会選抜展</td> <td>1,046人</td> <td>11日</td> </tr> <tr> <td>川口市小・中・高校硬筆展覧会</td> <td>6,794人</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>第26回水道ポスターコンクール</td> <td>503人</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>第52回 川口市特別支援学級児童生徒合同作品展</td> <td>1,326人</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>中学生のART CLUB展</td> <td>868人</td> <td>7日</td> </tr> <tr> <td>川口市小・中・高校書きぞめ展覧会</td> <td>4,794人</td> <td>6日</td> </tr> <tr> <td>川口の図工美術まなび展</td> <td>1,971人</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17,302人</td> <td>47日</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	入場者数	開催日数	第12回川口市美術家協会選抜展	1,046人	11日	川口市小・中・高校硬筆展覧会	6,794人	5日	第26回水道ポスターコンクール	503人	5日	第52回 川口市特別支援学級児童生徒合同作品展	1,326人	5日	中学生のART CLUB展	868人	7日	川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	4,794人	6日	川口の図工美術まなび展	1,971人	8日	合計	17,302人	47日	
事業名	入場者数	開催日数																										
第12回川口市美術家協会選抜展	1,046人	11日																										
川口市小・中・高校硬筆展覧会	6,794人	5日																										
第26回水道ポスターコンクール	503人	5日																										
第52回 川口市特別支援学級児童生徒合同作品展	1,326人	5日																										
中学生のART CLUB展	868人	7日																										
川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	4,794人	6日																										
川口の図工美術まなび展	1,971人	8日																										
合計	17,302人	47日																										

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1)市民に対する啓発活動としての文化政策といったイメージを受けた。学校教育が関わっているため、そのような側面があると思うが、もう少し自由な活動があってもよいのではないか。</p> <p>(2)学校連携事業は年に1校とのことだが、もっと増やせないか。</p>
--

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1)学校連携は、教職員の協力が不可欠である。今後は、展示内容等含め、偏ることなく幅広い視野で連携を図る。</p> <p>(2)アーティスト・イン・スクールは、アーティストが約1ヶ月をかけて学校で授業を行う事業であるため、相当期間アーティストの予定を確保する必要があること、また学校との調整や担当職員の配置など十分な準備期間や実施体制が必要なことから1年に複数校での開催は難しいと考えている。しかし、事業の取り組みは美術・教育関係者から問い合わせがあるなど学校連携事業として実績が高く評価されているため実施校を増やせるような体制づくりを検討していきたい。</p>
--

4 担当課の平成31年度予算作成にあたっての考え方

広報に関わる予算を前年度より重点的に配分し強化していく。具体的には近隣大型ショッピングモールのアリオ川口フードコート内にある情報発信モニターの「フードコートビジョン」に自主企画展の情報を放映する広告料を新規に計上するほか、チラシ・ポスターの配布箇所や配布数を増大し事業の宣伝効果をより一層図るため、印刷製本費や郵送料などの関係経費を計上していく。

5 予算編成結果

予算要求額	16,688千円
財政課の 予算編成結果	ほぼ要求額どおり
その理由	前年度とほぼ同額の予算要求であったことから、現状維持として要求額どおりとしたもの。

※（参考）予算額の推移

単位：千円

年度	予算額	前年度比
平成29年度	14,712	
平成30年度	16,676	1,964
平成31年度	16,544	-132